

# ジェンダーをめぐるコミュニケーション齟齬の研究

——定期刊行物におけるジェンダー言論（1980年代から2000年代）——

首都大学東京 左古輝人

## 1. 目的

1980年代から2000年代までの日本の定期刊行物の言論におけるジェンダーという語句の意味、およびその変遷の概観を、量的分析の手法によって得る。

## 2. 方法

定期刊行物の記事のなかでジェンダーという語句を表題に含むものを年毎に収集し、その文面においてジェンダーという語句が他のどのような語句とどの程度の頻度で共起しているかを計測する。これにより、ジェンダーという語句の意味、およびその変遷の概略を得る。

## 3. 結果

3-1) 1980年代半ば、ジェンダーはもっぱらイワン・イリイチを紹介する文脈で日本語に導入された。

3-2) ジェンダーは90年代前半をとおして急激に適用範囲を拡大すると同時に、《家庭、職場、学校における女性（と男性）の役割》として意味を結晶化させていった。

3-3) 90年代半ば、ジェンダーは女性の役割を問い直す言論動向の中心へと躍進した。

3-4) 90年代後半には一転して共起語句が多様化し、ジェンダーは意味を拡散させていった。

3-5) 00年代にはジェンダーの意味の緩やかな再集約化過程が確認できるが、今後、90年代半ばに匹敵するような結晶化が起こるかどうかはわからない。

## 4. 結論

ジェンダーの危機は、これまでに指摘されてきたような02-04年におけるいわゆるバックラッシュの時期よりも、90年代後半の意味拡散、あるいはそれ以降の意味の再集約の不全にあると言える。この意味拡散が生じた原因は必ずしも明らかでないし、単一とも思えない。しかし少なくとも1つには、この時期、ジェンダーを生物学的・生理学的な性別との対比で社会的・文化的性差ととらえる理解が、内在的かつ根本的な批判に晒されたことが指摘できる。

## 文献

- 井上輝子、2006、「「ジェンダー」「ジェンダーフリー」の使い方、使われ方」、『「ジェンダー」の危機を超える!：徹底討論!バックラッシュ』若桑みどりほか編著、青弓社。
- 左古輝人、2010、「社会の科学とテキストマイニング」、『人文学報』社会学篇45号。
- 鈴木努、2006、「二〇〇五年衆議院選挙における三大紙の社説比較：概念ネットワーク分析の適用」、『マスコミュニケーション研究』69号。